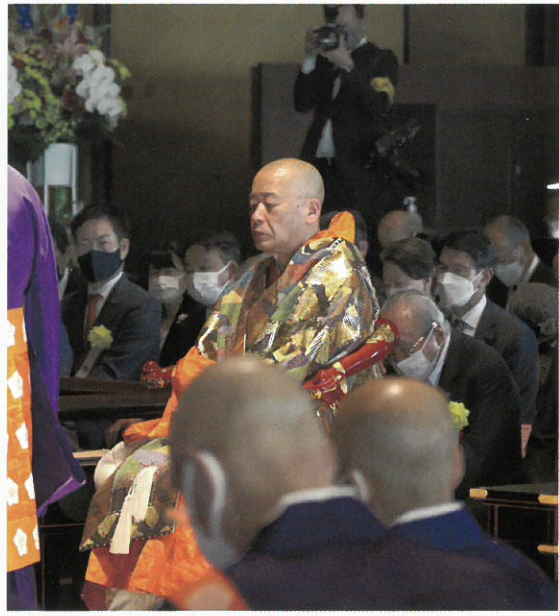


高尾山報

令和4年6月号



大本山高尾山薬王院中興第三十三世貫首佐藤秀仁僧正
晋山記念特別開帳大護摩供法要



晋山式に臨む成田山岸田貫首

大本山成田山新勝寺中興第二十二世貫首 岸田照泰大僧正晋山式

四月二十四日、大本山成田山新勝寺中興第二十二世貫首岸田照泰大僧正の晋山式が盛大に執り行われ、当山佐藤貫首が参列されました。

総勢千八百人の慶祝大行列から始まり、大本堂前に於いて庭儀や、鉦子はね太鼓の演舞に続き、大本堂では真言宗智山派管長総本山智積院化主第七十二世布施浄慧院下、総本山根来寺座主中村元信院下、大本山隋心院門跡龜谷英史院下、大本山川崎大師平間寺藤田隆乘貫首、真言宗智山派芙蓉良英宗務総長ほか宗内外諸大徳の御来賓のもと、成田山御本尊不動明王御宝前に於いて、岸田貫首大導師により晋山奉告大護摩供の厳修と共に、晋山傳燈奉告文を奉読され、御本尊不動明王に法燈護持を誓われました。

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城 (120)

万代に

変はらぬものは

五月雨の

雫に薫る

菖蒲なりけり

（『金葉集』源経信）
（永遠に変わらないものは、五月雨の雫に薫る菖蒲の麗しさであることよ）
爽やかな新緑の初夏から、潤いの季節へと移ってきました。陰暦の四・五・六月（現在の五・六・七月）は「三夏」と呼ばれ、今の時期はちょうど夏の半ばにあたります（仲の夏）。やがて梅雨入りから一ヶ月も経てば、元気に輝く太陽が顔を出してくるでしょう。

な香りは、まるで香水のように感じられたかもしれません。
この時期の「長雨」は「眺め」という言葉と掛けられるように、長く降り続く雨を見つめていると、いつしか物思いに耽ってしまふものです。「風薫る五月」ではありませんが、五月雨によつて一段と鮮やかさを増す草花を愛でながら、しつとりとした「雨薫る六月」を楽しんでみてはいかがでしょう。

師長・沙門・婆羅門を見れば、為に床座を敷きて座せしめ、乃至自ら已に自ら坐せる所を以て請い坐せしむるなり」と見えます。「床座」は「座るところ」を意味し、「人のために場所を用意したり、自分の席を譲ったりすること」を説いています。「床座施」は、席を譲るといふ点からすれば「譲座施」と言い換えられるかもしれません。
さて、現代の「床座施」といえば、電車やバスなど公共交通機関での行動を思い浮かべる方もいらっしゃるでしょうか。国土交通省が実施したアンケート（令和三年三月）によれば、優先席に座っている時、高齢者や身体の不自由な方、妊婦さんや怪我をしている方が近くにいたら席を譲るかとの問いに、「よく譲る」とときどき譲る」と答えた方は八〇パーセント以上に達しています。
また、優先席ではなく



雨薫る六月を楽しんでみましょう

でも、お年寄りに席を譲る運動をしている学校があり、そこで二位に輝いた生徒さんが「ポイントはずまず自分が座ること」と

語ったそうです。まさに目から鱗が落ちるような名言ではないでしょうか。誰かに席を譲るためには、まずは自分の席を

確保し、さらにはいつでも譲る姿勢でいることが大切なのでしょう。立ち上がる行為とともに、「譲る心」の重要性も教えてくれたように思います。

「席を譲る」という言葉には「自分の席を空けて人を座らせること」以外にも、「それまでいた地位に他の者が就く」という意味も含まれています。

日本には古来より「譲り合いの精神」「謙譲の美德」といった言い回しがあるように、自分より重んじ合う心の美しさが重んじられてきました。「椅子取りゲーム」のような遊びならともかく、実生活においては、相手を蹴落とす行為はやはり慎むべきでしょう。「譲る心」は、今回の「床座施」の基本となる心構えでもあります。

こうした「譲り合い」をめぐっては、次のような話が伝わっています。
皇位継承をもくろむ者に父を殺された兄弟

がいました。二人はその身分を隠して、播磨国（現在の兵庫県）の志自牟という人の家に身を潜めていました。
ある日、志自牟の家の新築祝いがありました。宴もたけなわになると、皆が舞を舞い、そこに居合わせた二人の少年も、舞うように促されました。

一人の少年が言いました。「お兄さんが先に舞われるように」と。するともう一人が「弟が先に舞われるように」と言いました。

「古事記」

「二王子の舞」

二人の少年は、父を殺されても怨むことなく、お互いを認め合つて生活していたのでしよう。その息を合わせる仲睦まじい姿に、周りも笑顔に包まれています。
二人の少年は、後の仁

賢天皇と顕宗天皇と伝えられます。仁賢天皇の御代は国中が治まり、「天下は仁に帰し、民はその生業に安んじている」と評される名君と讃えられます。こうした情け深い心は、この二王子の場面に描かれているように、若き日から培われてきたものであったのでしよう。

近江なる千の松原

千ながら

君に千歳を

譲る譲る

みな譲る

（後白河法皇撰

「近江国にある千の松原」の「千」の名のように、お慕いするあなたに千年の長寿を譲ります。譲ります。すべて譲ります。生死を忘れて尽くすことを「命を譲る」と言います。五月雨を浴びて生い育つ草花の姿を眺めながら、譲る心の美しさを感じています。
（栃木北部教区普濟寺）

祝 講社記念登拝 三友建設高尾講 参拝七十五回



参拝七十五回を記念して
感謝状を授与された外池講元

五月十八日、三友建設高尾講の皆様が来山され、参拝七十五回を迎えられました。昭和五十九年に結成された三友建設高尾講は、八王子市内の三友建設株式会社を母体としており、薬王院の参拝である、外池正明様が講元を務められています。現在では新緑と紅葉の時期、年二回の参拝を続けられています。

祝 新講元就任

八王子高尾講来山



就任の辞令を頂いた保坂講元

五月八日、八王子高尾講の皆様が来山され、保坂健二様が五代目講元に就任されました。八王子高尾講は八王子市内の建築関係の方々により組織されており、春季大祭では、お稚児の募集などに尽力いただいております。保坂様は「諸先輩方のお力を借りつつ、若い力で頑張つて参ります。」とお話されました。

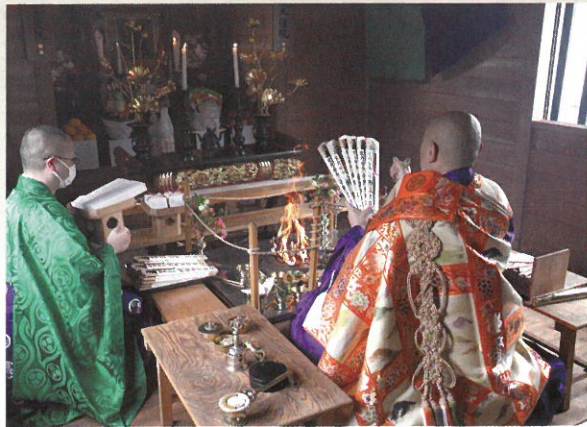
駒ヶ根分霊院例祭

五月三日(火)



石倉分霊院例祭

四月二十九日(金)



晋山記念特別開帳大護摩供法要

大本山高尾山薬王院中興第三十三世貫首佐藤秀仁僧正

去る五月七日、十三日、十四日、二十日、二十一日の五日間に渡り、大本山高尾山薬王院中興第三十三世貫首・佐藤秀仁僧正の晋山を祝して、晋山記念特別開帳大護摩供法要を延べ八座厳修致しました。法要では高尾山のお檀家様や篤信者様、講中や参拝団などの代表者様をお招き致し、仏法興隆・万国平和・国土安穩・講中繁栄・信徒安全をご祈念申し上げます。又、晋山を記念して、本年十二月二十一日まで、限定特別御手元守りを授与致しております。皆様の御来山お待ち申し上げます。



大本堂へ向けご招待の檀信徒と行列をする



熱禱する佐藤貫首



晋山の御挨拶を行う佐藤貫首



大本堂で法要に参列する招待者の御信徒



十二月二十一日まで限定授与している
晋山記念特別御手元

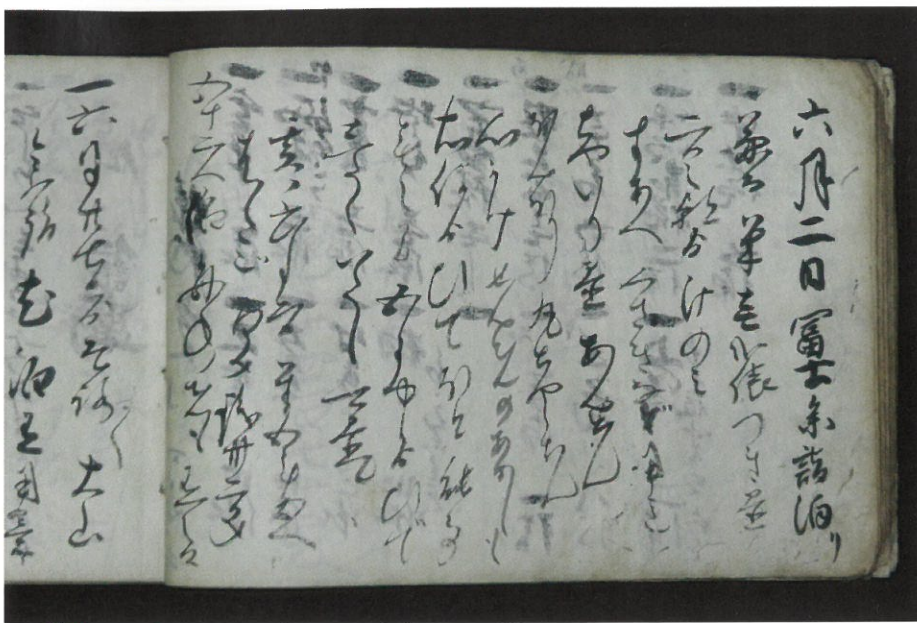
高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

30

十四世秀永7 享保期の高尾山信仰(下)



「富士参詣泊り」の記事(法政大学多摩図書館寄託)

「年々諸用記」という備忘録のような帳面から、享保初年の頃、火難除や降雨、蚕守護のご利益を求めて高尾山を信仰し、人々が参詣に訪れる様子を見る事ができた。同帳から知れる高尾山信仰の様相について、もう少し取り上げてみたい。

参詣者の宿泊

享保四年(一七一九)に「六月二日富士参詣泊り」という記事がある(写真)。

この記事からは、当時の参籠の様子が垣間見えるので、一部解説の不明な部分もあるが、その内容を見てみよう(は筆跡が異なる部分)。

兼ねて米一・二俵つき置き
二日の朝より汁の実、
酢あえ、くさきなど
用意
茶煎り置き、行灯・
ぼんぼり・丸提灯
芯かけ、行灯の明かし(り?)も
右何よりひで(火出?)程よき事これ

なき間、五月中よりひで支度いたし置くべくそろう
亥の六月二日 米五斗加え、旅籠百文、銭三十二文
五十二人泊り、毎年のももこれ有りそろう

一、六月二十七日より、そろそろ大山参詣、もつとも泊り用意有り乃至七月七夕前は泊り少々有り

六月二日朝からとして食事のメニューが記されている。冒頭に米をつき置きとあるのは主食用で、当時の習慣としては麦や雑穀を混ぜたかて飯だっただろう。「汁の(実)」があり、「すあへ(酢和え)」の「くさき」とは恐らく「臭木」のことで、シソ科の落葉小高木の若葉は山菜として食用される。「など」とあるので酢和えは山菜の類を複数用いたものだろう。「ちや(茶)」は「煎り置」とあるのでほうじ茶か。「汁一菜の至つて質素な食事内容である。

つづいて照明具についての記載となる。当時の行灯は火皿に菜種油や魚油を入れ灯芯で吸い上げて火をともししていた。二回出てくる「ひで」の字句は不明だが、程よき事これなきというのには芯の具合が悪く火が付きにくいという意味だろうから、前もって着火を試しておくようにということだろう。米の追加の記事はさみ、「はたご」として金額が記されているのは宿泊料のことと思われる。「百文」「銭三十二文」と二通り記載がある意味はよくわからないが、合せた額は、ちょうど東海道の宿場の水準で質素な宿の部類に入る。

次のページには六月二七日頃からは相模大山の参詣が始まること、泊りがあるので用意すること、七夕前には少しばかり宿泊があると記される。

文中、用意された米の量に注目したい。一俵を四斗とすれば一合(八〇ml)に四〇〇杯分となき間、五月中よりひで支度いたし置くべくそろう

なる。最初の記載は一、二俵とあるので、二俵ならその倍。途中にある五斗(五〇〇合)を加えるとなるとかなりの量である。「つき置」とあるので、糊から玄米にすると八割ほどの分量になるが、かなりの人数を賄える米の量と言える。

参詣者が泊まる宿坊の様子は、地誌や紀行文が残りはじめの一九世紀前期の段階には具体相が明らかだが、それより百年さかのぼるこの時期においても、相当な人数が参籠している状況が知られる。後段の人数の問題を考慮すると信徒宿泊用の坊がすでに存在したとも推測される。「富士参詣泊り」と記されているが、大山参詣の記事もあり、恐らくそればかりでもなく、高尾山を訪れ、本尊に祈願するため参籠する人々が多くあったことだろう。

富士信仰の興隆

さて、富士山へ参詣の

途次、高尾山に立ち寄る行程は、両山参りとしてよく知られているが、江戸中期のこの頃、実際に行われていたことをこの記事は証明している。第八回に取り上げた『小田原記』所収の吉田御師[※]の八王子移住伝説、また、一九世紀初頭の護摩檀家園が吉田口登山者在住園と推定される地域と重なることなど、甲州道中経由の富士参詣と高尾山との密接な結びつきを物語る材料はいくつかある。

富士山を聖地として崇拜する歴史は太古の時代からあるが、この連載でも戦国の北条・武田の抗争に道者の参詣が影響される様子を記した。庶民による富士参詣が盛行するのは江戸時代のことであるが、江戸における富士信仰の始祖として認められる藤原(長谷川)角行は治国済民祈願のため諸国を巡る内、富士山を修行の地と定めた。角行

の弟子筋である食身身縁(じぎぎようみろく)による享保一八年(一七三三)の富士山七合目付近での入滅、村上光清による同年発願の北口浅間神社社殿改築は、江戸における富士信仰高揚の契機とされる。

彼らの弟子たちによって多くの富士講が組織された。講というグループは信心を共にする者のコミュニティであり、参詣に係る費用の工面と継続のための互助組織である。すなわち、長い旅程に経費も嵩む参詣にはおそれと行けないので、代表者を選んで送り出す形式(代参講)が取られたのである。講金を出し合い、くじ引きによって代参者を

選出するのである。実際に富士山への参詣が叶わない者は、三富士山ともいえる小高い山や各所に造成された富士塚に勧請された浅間社を詣でていた。

江戸中期の両山詣で

「年々諸用記」の宿泊記事は、富士講盛行初期の動向として注目されてよい。ところで、「五十二人泊り、毎年のももこれ有り」という記載があるが、この人数はどのような数字なのだろうか? このページの記事自体は米の分量を考えても六月二日当日だけの宿泊対応のことではなく、また照明具の準備に「五月中より」とあることからすると、記事は六月二日より以前に書かれたものということになる。しかし、五十二人という人数を記した部分は筆跡が異なり、ページ末の余白への記載なので、準備として目指した六月二日の実際の宿泊者数を後から書き込んだものと考えられないだろうか。

ただ、この五十二人というのは代参講の形式からするといかにも多い。また、毎年泊まる者があるというの、くじ引きで代参者を決める方式にそぐわない。これを解釈すると、五十二人は全員が

富士山まで行くわけではなく、多くが途中まで同行し、その中には毎年高尾山まで来る者があったという見方が妥当なのではないか。

高尾山が富士山の遥拝所であったことは、富士浅間社の勧請や、冬至という太陽信仰の祭儀の日に富士山の背後に夕陽が沈む景色にも表れている。講中の多くが、揃って山上から富士を拝み、代参者を送り出して帰途に着いたということなのではないだろうか。

※御師とは宿坊を構える参詣者の世話をする宗教者のこと、吉田(山梨県富士吉田市)はその集住地の一つである。

《参考文献》池上真由美『江戸庶民の信仰と行楽』(同成社、二〇〇二)、城崎陽子『富士に祈る』(大本山高尾山薬王院、二〇一七)

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

高尾山天狗まつり

五月十八日(水)



国際ソロプチミスト八王子「春の集い」開催



佐藤貫首を囲む

国際ソロプチミスト八王子の皆様

五月十一日、国際ソロプチミスト八王子の皆様が来山されました。国際ソロプチミストとは、女性と女兒の生活向上を目指す、国際女性奉仕団体です。今回は高尾山でのチャリティー活動の一環として、「春の集い」が開催され、佐藤貫首の法話や八王子車人形公演が行われました。

高尾山内八十八大師巡拝



高尾山内各所に祀られるお大師様と御縁を結ぶ



大師堂前にて記念撮影

五月十日、高尾山内八十八大師巡りが行われ、小雨降る中で総勢三十八名の方々が参加され高尾山中を巡拝し、お大師様との御縁を結ばれた。巡拝は清滝周辺のお大師様から始まり先達の僧侶とともに、「慚愧懺悔六根清浄」と掛念仏をお唱えしながら、急峻な琵琶滝道を徒歩練行し、薬王院までの道中で各お大師様に法薬をお勤めました。山上に到着し、大本堂にて御護摩修行に参拝された後、お大師様をお祀りする大師堂周辺の八十八大師御砂踏み霊場を巡りました。精進料理の昼食後には、一号路を下って道中の各お大師様を巡拝して不動院に到着。その後は不動院にて巡拝の成満を御本尊様に奉告する献灯式が佐藤貫首御導師のもと執り行われました。

交通安全祈願碑法要厳修

五月一日



交通安全への祈りを一心に祈念する

五月一日、高尾山麓の清滝駅前において、高尾交通安全協会の主催により令和元年五月一日に建立されました、「交通安全祈願碑」への交通安全祈願法要が佐藤貫首御導師のもと執り行われました。祈願碑には先代の大山貫首が揮毫されました、「二心祈願 人車一体 愛情運転」という言葉が刻まれています。高尾交通安全協会の小松会長を始め、役員・会員の方々が参列され、高尾山を訪れた方々と共に、交通事故が無くなるよう一心に祈願されました。

折り折りの記 (154)

波多野 重雄

南天の花赤々と咲く高尾山

高尾山のケーブルカーに乗りトンネルを抜けると、右手に観賞用として南天の花が、一列に栽培されている。白色五弁の小さな花を、円錐状に沢山巻いている。秋の赤い実の鮮やかさに比べると、あまり目立たない静かな花色である。実る頃、南天の実が風に揺られて掴めぬまま雀は自然と宙を風に乗る舞上がり、揺られる南天の実と戯れている姿は可愛くもあり、一服の絵を見る思いである。(高尾山健康登山の会会長)

上洛雑感

夏遊妙法院門跡

朝梵勤精智積院

如來壽量浩読祝

普賢真言多和唱

京阪婦女承壽福

厚木市 荒井 一雄

夏、妙法院門跡に遊ぶ

参籠せし智積院様を後にし、お隣の妙法院門跡にて

『法華経・如來壽量本』全文を誦誦…

法要後僧侶様方がお供物の果物を参列者全員に施す…

『道中長旅で大荷物ゆゑ宜しければどうぞ』とお供物を全て差し上げる…

高尾山物語 50

仁王門

絵・橋本豊治



阿吽とは
阿 物の始めを 大切に
吽 ものごと けじめを しっかりと

御護摩受付所付近の広庭を経て御札場を通り抜けると、大本堂へと至る階段が見えてきます。その階段の上には東京都指定有形文化財に指定されている「仁王門」が建立されており。

仁王門前面には、「厄除開運」と記された額が掲げられ、向かって左側に密迹金剛力士像（吽形）、右側には那羅延金剛力士像（阿形）という阿吽一对の仁王像、後面大本堂側には同じく阿吽一对の大小天狗像が祀りされています。

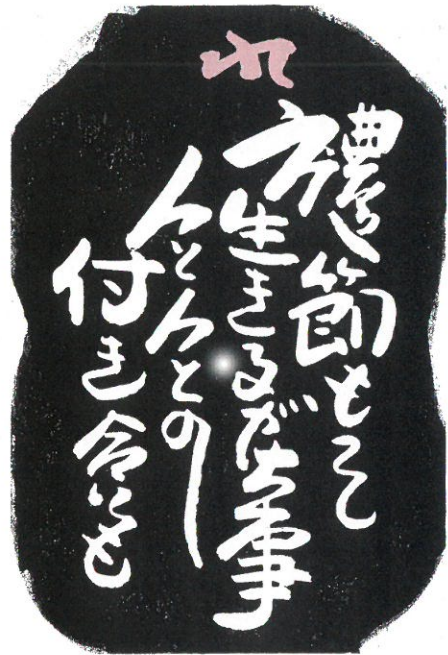
建物の建築や修築の記録する棟札が仁王像の胎内に納められており、以前の仁王門は延宝五年（六七七）十一月晦日に薬師堂と共に火災に遭い消失、貞享元年（一六八四）に薬師堂と同時に、現存する仁王門が再建されたことが分かっています。

再建にあたっては、以前の門と同様寛永期の様式を再現したと伝わります。

いろは

天狗の落し文

17



れ

礼節もって生きるが大事
人と人との付き合ひも

「親しき中にも礼儀あり」という言葉にもありますように、人間関係を築く中で互いを尊重し合うことはとても大切なことです。自分にとって親しい人とそうでない人、その違いは「遠慮」にあるのではないのでしょうか。相手にも様々な思惑があるでしょうから、どんなに親しいからといって全くの遠慮無しに相手に甘えるばかりと、ならないように気をつけましょう。

いけばなの心 28

華道教授 佐藤 宗明

今回は近くの花屋さんで購入した鉢植えのお花で『生花正風体』を生けました。

も爽やかな香りも特徴です。花器もその雰囲気にあわせて透明感のあるものを使いました。生花正風体は役割を持った枝、『役枝』と、それを補う『あしらい』を入れて生けています。生花の勉強をしていると、つい、多くの枝

を入れて形を整えたくなくつてしまうのですが、できるだけ花材の動きを見て、最小限の枝で生けていくのがいけばなの醍醐味です。

『華道』というと、昔ながらの花材をつかう物、というイメージがあるかもしれませんがそのような制約はありません。これからどんどん暑くなっていく中で、爽やかな香りも楽しめるいけばなも楽しいですね。



花材：ローズゼラニウム

高尾山の昆虫

ヒゲナガオトシブミ

152

オトシブミ(落とし文)というロマンチックな和名を持つ甲虫の仲間がいます。

ゾウムシに比較的近い個体群で、若葉を噛んで折り曲げながら巻いて揺籃を作って中に卵を産み、やがて揺籃は路面に落下し、昔手紙を道端に落として密かに渡したとされる「落とし文」状態になるといって、実にメルヘンチックな習性を持つことが知られています。



この揺籃は簡単にほどけたり壊れたりしないように、幼虫が育つための格好の食物となると同時に、外的から身を守るための重要な役割を担っています。

そのオトシブミの中でヒゲナガオトシブミのオスは古代の首長竜のような、或いはちよっと大げさに言えば妖怪のろくろ首のような一際長い頭部が特徴的で、一見首が著しく長いような印象を与えることでしょう。

頭部と前胸との間は上下に折り曲がることのできるため、まるで工事現場で見かけるクレーンのような趣があります。

本種は(髯長落とし文)の名のとおり、触角が長いことも特徴で小型種のため見つけにくい面がありますが、イタドリやコブシの葉上を丹念に探せばユニークなデザインの本種が見つかると思います。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

高尾山 季節散歩

暦の言葉 「七十二候」
菖蒲華
「あやめはなさく」

六月二十六日〜六月三十日頃

「アヤメ」と「ショウブ」は大変よく似た花で、漢字は両方とも「菖蒲」です。また、杜若もよく似た花です。アヤメは五月頃、次いでカキツバタ、この六月の下旬にはショウブが咲きます。三種の違いは花の付け根で区別されます。

今月の風物詩

雨蛙

アマガエルは市街地では個体を減らしておりますが、郊外では雨が近づくると盛大に鳴きはじめることから、この名前になったと言われております。蛙は通常、繁殖期の夜に鳴きますが、アマガエルは雨が近づくると昼間でも鳴くのが特徴です。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙

八王子市 栃谷 玲子

「自然に感謝」

自然に感謝

高尾スミレ



「平常心」



アカゴ 10月

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

五段 成長を促すことが出来るのは反省

物事に成功した時も失敗した時も、結果はどうであれ後から検証することは大事なことです。行動を振り返って、もう少しうまくできたはず、あそこで間違っていなかったら、と反省点することが次の機会に活かせることでしょ

「高尾山健康登山の証」のお勧め

年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が会員となられております。期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……………七百円
スタンプ………百円

「蓮華」の花に学ぶ

八王子市 松尾 貢嗣

古池や

蓮華の花に

白露かな

自宅から歩いて十五分程にとある古寺がある。境内はそれほど広くない。

境内には池があり、先の一句が誕生した。

少年時代から父と手をつないで、神社や仏閣に立ち寄ったことを思い出した。この地区は山田町の地名が書き記されている。古池と噴水の景観が静けさを生んでいる。時折噴水が涼しさを運んでくる。このお寺は建物と古池の調和がとれている。私の俳句の作品は、蓮の花が美しく咲いていた頃に詠んだものだ。蓮華の花の咲くこの季節にたびたび訪れていたご夫婦は、きっとその開花を待っていたのだろうな—と思った。

蓮華の池は満ちあふれる水量だった。

しかし水は汚れていました。それでもその汚れた水から美しい花を咲かせていることに、不思議さと驚きと、感動を覚えた。

蓮華は汚れた濁りの水に生き生きと咲いている。しかし、汚れに染まらずに美しく咲き続けることは、美の構図に秘密があるのかとふと思った。泥の中に根を張り、土の中で成長する。花が開花した時には、すでに実は花の中にある。この現象は、他の花にはない。子供の頃から、また大人になっても蓮華の花を見るたびに、心が洗われるようだった。会社人生四十年で退職し、それから十年経過した七十歳の時だった。仏教（お釈迦様）の教えに深く興味を持

き進む。

私は、人間として両親の体を借りて誕生した。生まれたことに大事な使命があること、責任ある人間、人として互いに思いやり、助け合ってゆく、お互いに命を大切にすることが、人としての使命ではないでしょうか！

大自然の営む神仏の恩恵に浴して忘れがちなこと、蓮華のたとえに生きていくことの意義と使命に、心が熱く燃えてきた。

泥の中に生きて汚れのない花の輝き、誰にも負けない強い意志、汚れた水の中で真水を吸い取る行為は、宇宙が作りだしているのかな—。

現世は生まれながらにして苦の世界である。苦と悟り、苦の中、樂あり、この世の中は人生修行である。修行を重ねていくその先に、永遠に変わらない



世界が現れる悟りの自覚がある。

仏性は生まれた時に内在している。生まれた時は気づかない。欲望の心を優先して生きていくと、人達の思いやり、気遣いに気がつかない。

人は早くから「法華経」の教えを学び実践すること、人様の為になる行いを忘れてはいけない。

自分の心の目、心の闇を取り除き、清い心、温かい心遣いを、自分の仏性に気づき、人を幸せにする能力がある。それには「法華経」を深く信じ、学び伝えることを生きがいとし、残された人生を人様に喜ばれる行いをしたいと願っている。



高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。

御護摩修行のおすすめ 皆様の諸願成就を祈願する

苗木奉納

古来より高尾山の御信徒は、自分のお願いが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納する習慣があります。今日でも、お杉苗木奉納は続いており、参道の大杉原には、杉苗木奉納者の芳名板が、板塀のように並んでおります。高尾山では寺法において「殺生禁断」を第一義に、むやみに草木を切ることを厳しく戒めてきました。私達は信仰心と共に大自然を守り、また大自然から守られつつ共存共栄し、今日の景観を造りあげてきたということを、忘れてはならないと思います。尚、毎年十二月十日までに、一万円以上を御奉納頂いた方のお名前を、翌年より掲示させて頂いております。

高尾山薬王院の御護摩札

交通安全 (ステッカー) (車内用札)	御護摩 3,000円以上	御護摩 5,000円以上	御護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上	特別開帳大護摩 100,000円以上
最大巾8.5×長12.5cm	最大巾8.5×長35.5cm	最大巾8.5×長37.7cm	最大巾9.5×長42.3cm	最大巾12.0×長48.5cm	最大巾12.0×長54.5cm	最大巾14.3×長60.5cm

交通安全 (ステッカー) (車内用札)	御護摩 3,000円以上	御護摩 5,000円以上	御護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上	特別開帳大護摩 100,000円以上
交通安全 (ステッカー) (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)
交通安全 (ステッカー) (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)	交通安全 (車内用札)

お護摩の願事
お願い事は一体一願意とします。
併願(二願意)は一万円より受け賜ります。
但し、五千円以内家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。
お護摩札には年令・生年月日等は入りません。

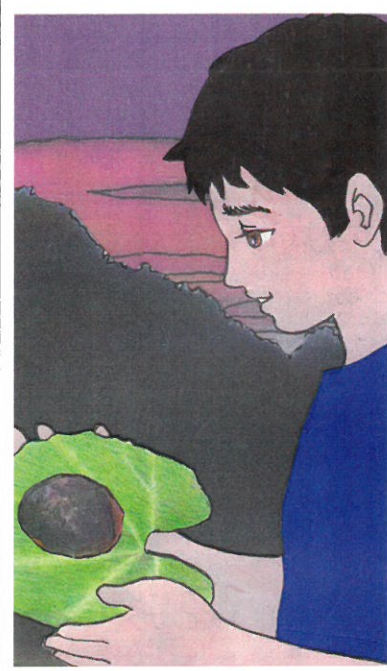
おはなし散歩道 小豆とぎ

町田市 大澤桃代

せせらぎの音にまじり、ガシガシガシヤ、と砂利を洗うような音が聞こえる。「何だろう」と男は川へ向かった。懐かしい音だった。リュックは路や真竹の筍でいっぱい。山菜を採りに、村外れの原まで来たが、夢中で採るうちに日暮れ近くになっていた。過疎の村で原に入る者などめったにない。男は独り者だ。村に住み農業をしている。親が相次ぎ亡くなり故郷に戻った。田畑を放っておけなかったし、都会の暮らしにも疲れた。気ままに寝起きをし、米や野菜を作り山や川を巡る。養う者もなく気楽な身だ。ガシガシガシヤガシヤ、音は次第に大きくなる。川に近づくと人の姿はなく、河原には小石や砂利があらばかりだった。

男は村に伝わる「小豆とぎ」の昔話を思い出す。日暮れ時、河原に現れる妖怪で、音の方へ近づくと婆さんが小豆をといでいるという。婆さんは山姥とも妖怪とも伝わる。最後が二通り考えられるが、どちらかわからない。山姥に食われるか、ぼた餅をふるまわれるか、大変な違いじゃねえか! ガシガシガシヤガシヤ……! ジャジャジャーン! 大きな音が響き、男は恐ろしくなり、引き返そうとした。そのとたん、「兄ちゃん、兄ちゃん」と呼ぶ者がある。——で、出た! 走ろうとするが、リュックが重い。空身になろうとするが震えるばかりだ。ようやくリュックを下し、走り去ろうとした。「路、せつかく採ったのに

……いらないの?」幼い声に、恐る恐るふり返ると、男の子がいた。一年生くらいだろうか。ハーフパンツにTシャツ、赤いパーカーを着ている。男は、ほっとしてリュックを直す。昔話を真に受けた自分が恥ずかしい。「音は、おまえか?」と聞くと、子どもは頷き、ゲーム機を出す。少し古い機器だ。ボタンを押すと、ガシガシガシヤと音がした。ジャジャジャーン! はフィナーレの音だ。懐かしい、昔遊んだことがあったと思う。「一人か?」と、聞くと、「婆ちゃんといっしょ!」子どもは山を指さす。峠にホテルのような白い建物が見えた。峠からは隣村になる。男が町にいた間に建ったのだろう。何も無い村々だが景観は良く、町の者の癒しになるのかもしれない。「家の人が心配してるよ」というと、子どもは首をふる。婆ちゃんは子どもが原にいるのを承知して



いるという。子どもはゲームを続ける。男が画面を覗くと、ゲームは勇者の旅の話のようだ。夢中になつて操作している。止めさせたら泣くだろうと仕方なく待つ。こんな子が自分についてもおかしくない歳だ、とふと思う。ジャジャジャーンとフィナーレが何度も鳴るが、子どもは帰ろうとしない。辺りが桜色に染まった。「路をやるから帰ろう!」男がいうと、子どもの顔が俄かに明るくなった。婆ちゃんの好物だという。路を小分けにし袋に入れ、山へと川縁を歩き出す。とたん、子どもが駆け出した。「婆ちゃん!」と。

川に小柄で年取った婆さんがいた。白い髪で顔も手も皺だらけだ。小豆を洗っていたようだ。いつしか峠のホテルは消えて、原に粗末な小屋が建っている。——本当の山姥だ! 男は震え上がった。「婆ちゃん路もらった!」「孫が世話になっただな。今時、小豆は流行らねえで孫が工夫してるだよ!」二人が口々にいう。ゲームの音で人を惑わすのか! 男は転がるように原を出る。田の畔で一息つき、リュックを開けると、路の中に大きなぼた餅が入っていた。(終わり)

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	八王子市 大久保伊三市 千代田区 川俣 光照 高崎市 小暮 典子 小平市 関 道雄 高崎市 永田 ふみ代 新座市 彰山 粧麗 蕨市 高山 頌子 東大和市 海老塚 善次 瀨上市 照 明 寺 日野市 小澤 榮八郎 八王子市 天野 章雄 比留間 榮子 石井 雅子 相模原市 比留間 榮子 八王子市 天野 章雄 小池 まり子 天野 かつみ 吉沢 芳子 渡辺 宏 行田市 松本 恵美子 八王子市 峯尾 洋一郎 高尾山健康登山者一同
----------------------------	---

高尾山報助成金 御志納のお願い

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。引き続きご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。



子供やまぶし 修行体験会のお知らせ

本年の八月七日に予定されており「子供やまぶし修行体験会」につきましては、新型コロナウイルスの流行が未だ終息していない現状を鑑み、平常時とは異なる修行内容を検討しております。実施日程及び修行内容等の詳細につきましては、現在山内において、感染対策を踏まえながら協議しております。ご参加をお考え頂いている皆様には、ご理解頂きますようお願い申し上げます。

尚、日程や詳細等につきましては、高尾山報の七月号、また、薬王院ホームページにて発表させていただきます。

子供やまぶし修行体験会係
☎〇四二・六六一・二二五

「第四十回 高尾山写経大会」開催のお知らせ

本年もコロナウイルス感染症予防のため、高尾山写経大会を昨年引き続き、通常よりも募集人数を制限して開催致します。また、例年同時に実施しておりました夏期講座は中止となります。昼食につきましては、希望者の方にはご用意致しますので、申込み時にご予約願います。在宅写経につきましては、コロナ禍のため昨年同様を実施致します。参加ご希望の方は、写経作法・心得を記した「写経の手引き」等、写経用紙一式を発送致しますので、ご自宅にて書写後、当山までご送付下さい。お預かり致しました写経は、写経大会の際に御本尊様御宝前に奉安致します。

高尾山での写経を希望の方

日時 七月二十四日(日) 午前九時半集合
会場 高尾山薬王院大本坊
会費 二千元
食事代 二千元 ※要事前予約
申込 お電話、またはホームページ上よりお申し込み下さい。
☎〇四二・六六一・二二五
<https://www.takaosan.or.jp/>

在宅での参加をご希望の方

会費 二千元
※参加費につきましては、送付物一式に払込取扱票を同封致しますので、郵便局にてお支払い願います。
申込 ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。
〒一九三・八六八六
八王子市高尾町二二七七 高尾山写経大会係
七月八日(金)必着

申込締切 七月八日(金)必着

薬王院インスタグラム紹介

高尾山では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。これからも様々な写真や動画を沢山アップしていくので是非ともフォローをお願い致します。



instagram.com/takaosan_yakuoin/

郵送御護摩申し込み受付について

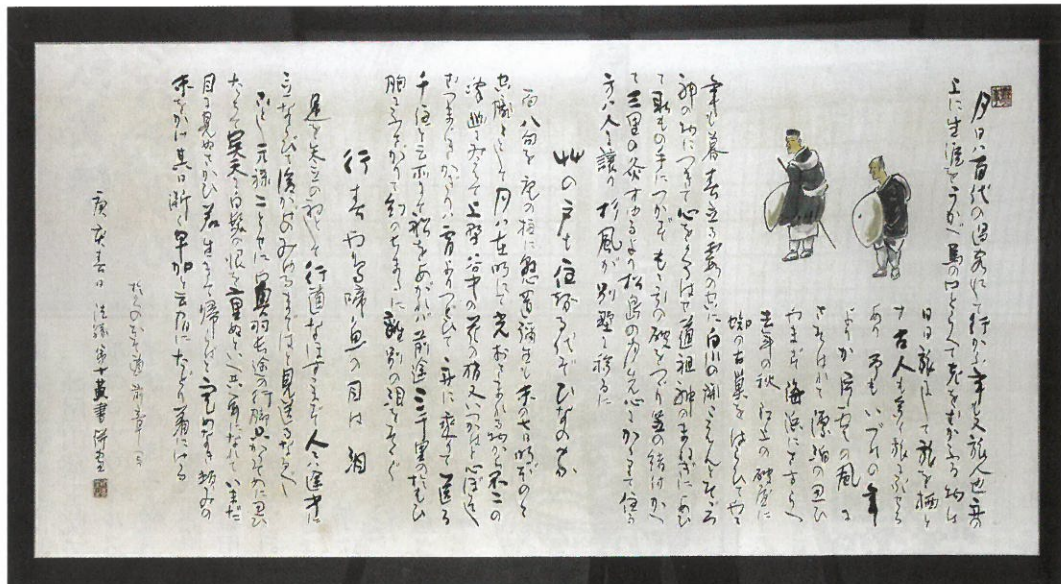
高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方の御信徒や、参拝できない御信徒の皆様の為に、御護摩札の郵送をお受けしております。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、「高尾山薬王院公式ホームページ」内の御護摩祈禱の御案内からインターネットにて、直接お申し込み頂くことが出来ますので、是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先 ☎〇四二・六六一・二二五
「郵送御護摩係」まで

院内散歩 62

薬王院の展示物



書画「おくのほそ道 序文〜草加」松尾芭蕉 作・小田嶋十黄



登山だより

三十一日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

七月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

三日、十五日、二十七日

弁天様御縁日

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十二日

お施餓鬼大法要

二十一日

飯繩様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十四日

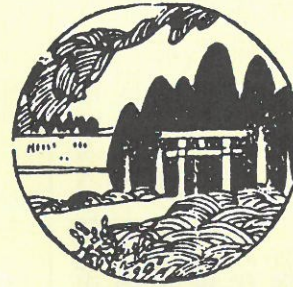
御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養

(十時奥之院)



※お施餓鬼につきましては、昨年同様に感染症予防の為、規模を縮小して行う予定です。
お申し込み方法などの詳細につきましては、後日御連絡させていただきます。

毎日の お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分

// 9時30分

// 11時00分

午後0時30分

// 2時00分

// 3時30分

ご講中・団体等御相談下さい。

神徳報謝百味飲食供

御志納のおすすめ

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若經六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)
御志納金 一口 三千円以上



大般若經を守護する十六善神の図

◆お知らせ

高尾山薬王院では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、境内各所への消毒液設置・換気・職員のマスク着用などの対策を実施しております。
御来山の皆さまにおかれましても、手洗いや咳エチケット等の予防対策情報に十分留意されますようお願い申し上げます。



下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます



高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷秀文
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円